令和３年度授業改善プラン　英語科

大田区立大森第四中学校

令和３年度授業改善プランの検証

・授業の最初に各学年で指導方法を統一し、基本的な内容を継続的に繰り返し行った。それにより、基本的な事項の定着を図ることができた。 ・文の構造を正しく身に付けるために、教科書の多読や、単語を並び替えて文を作る練習を繰り返し行った。 ・英作文指導では、授業内で「英作→添削→直し→発表」という一連の学習の中で、英文法の定着や自己表現力を付けることができた。

英語科における調査結果の分析

内容結果の分析	（聞くこと）	対話文の聞き取りについては、情報を整理し、内容を理解することができた。聞き取らなければならない情報が複数あると正答率が下がるので、メモを活用しながら内容把握に努めたい。
	（読むこと）	語形・語法を理解し、適切な形を選ぶ問題が不十分であった。資料や長文を読み取り、要点を把握する問題はよくできた。
	（書くこと）	英文を正しい語順で書く問題では、目標値を上回って書くことができた。単語を正しく書く問題は、目標値を下回っていた。
	＜第１学年＞	ほぼ全ての内容で目標値を上回っている。中でも「読むこと」「書くこと」の正答率が高かった。「主体的に学習に取り組む態度」が目標値を下回っていた。
	＜第２学年＞	全ての領域・観点で目標値を 10 ポイント以上上回った。また、小問別では、２つの問を除いて、目標値に対して+５ポイント以上上回った。一方で、対話への適切な応答（食べる場所）および英語で交通手段をたずねる文を書く部分は目標値をそれぞれ 1.7 ポイント、3.6 ポイント下回った。以上のことから、リスニング能力の向上、書く表現の能力の向上を図る必要がある。
	＜第３学年＞	全ての内容で目標値を上回っており、特に「聞くこと」「書くこと」の順で正答率が高かった。「読むこと」は長文の読み取りを多く行うことで、英語で理解する力を高めたい。
観点別結果の分析	（関心・意欲・態度）	テーマに沿ってまとまった内容で英語を使って答える問題については、全国正答率を上回っていた。
	（表現の能力）	場面に応じて書く英作文の正答率が目標値を上回った。記述式のリスニング問題も正答率が高かった。多読の成果が表れた。
	（理解の能力）	長文の読み取りでは、情報・条件を基に適切な答えを選ぶことができた。英文の要点を聞き取る問題では、疑問詞や数字を意識して聞き取らせたい。
	（言語・文化についての知識・理解）	語形・語法の理解や、単語を正しく書く問題の正答率が低かったので、英語を正しく書くことや、文の構造についての定着を図りたい。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

１．表現の能力	①決められたテーマに沿って英作文練習を繰り返し行い、自己表現力を付けさせる。 ②既習の表現の定着のため、パフォーマンステストや会話練習を用いて定着を図る。
２．理解の能力	①長文の読み取りでは、必要な情報・条件を正確に読み取れるよう、数字や動詞に着目して長文読解に取り組ませる。 ②リスニングでは、疑問詞や数字など核となる情報が的確に聞き取れるよう、繰り返し練習させる。
３．言語・文化の能力	①文の構造を正しく身に付けるために、教科書の多読や自習ノートを活用させる。また、問題集を繰り返し行うことで、実践的な力を身に付けさせる。 ②日々の学習やパフォーマンステストの中で、生活体験、自然体験などを自らの言葉で表現し、体験を言語化させる。

英語科の授業改善策

＜第１学年＞	・小学校英語活動で育んできた聞く力を向上するために、「クラスルームイングリッシュ」や「スモールトーク」を帯び活動に取り入れていく。 ・パフォーマンステストを定期的に行うことで、英語で自分や他者について表現する力を養い、進んで話す力を養う。 ・ICT や視覚教材を利用して、文構造を正しく理解できるように繰り返しながら基礎基本の定着を図る。
＜第２学年＞	・引き続き、少人数指導において個に応じた指導を行い、英語力の定着を図る。 ・リスニング力を定着させるために、①「言語活動を増やす」②「クラスルームイングリッシュを使用頻度を高める」③「リスニング帯活動を実施する」こと実践する。 ・書く力を定着させるために、まとめ活動において書く活動を多く取り入れる。
＜第３学年＞	・授業の始めに毎回テーマのある英文を読む。そのことで、英語を読むスピードを上げたり、日本や海外の文化を英語で伝えるときの表現を身に付けさせる。 ・パフォーマンステストを定期的に行うことで、英語で自分や他者について表現する力を養う。 ・ペアワークを行うことで、英語を使って自分の言いたいことを伝えたり、相手に英語でインタビューを行うことができるようにする。 ・問題集等を活用することで、文構造を正しく理解できるよう繰り返し指導を行う。